

## エペソ人への手紙アウトライン

- I 教理 教会の天的なお召し 1-3章
  - A 教会は体である 1章
    - (1) はしがき 1, 2節
    - (2) 父なる神が教会のために計画を立ててくださった 3-6節  
「わたしのためにからだを造ってくださいました」(ヘブル10:5)
    - (3) 子なる神が教会のために値を払ってくださった 7-12節  
「御子の血による贖い」
    - (4) 聖霊なる神が教会を守ってくださった 13-14節  
「一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け」(コリントI12:13)
    - (5) 知恵と力を求める祈り 15-23節
  - B 教会は神の宮である 2章
    - (1) 建設のための資材 1-10節  
「罪過と罪との中に死んでいた者」が生ける神の宮となる
    - (2) 建設の方法 11-18節  
「十字架によって」
    - (3) 建設の意味(目的) 19-22節  
「成長して主にある聖なる宮となる」
  - C 教会は奥義である 3章
    - (1) 奥義の説明 1-4節  
旧約の時代には知らされていなかった
    - (2) 奥義の定義 5-13節  
「異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり」
    - (3) 力と知恵とを求める祈り 14-21節  
「力をもって、強くしてくださいますように」「キリストの愛を知ることができますように」
- II 実践 教会の地上での歩み(召し出された者の務め) 4-6章
  - A 教会は新しい人である 4章
    - (1) 新しい人を示すこと 1-6節

「御霊の一致を熱心に保ちなさい」

(2) 新しい人に禁物なこと 7-16節

「もはや子どもではなく」「キリストによって(あって)……  
成長し」「完全なおとなになる」

(3) 新しい人に禁止されていること 17-32節

「異邦人が一歩んでいるように歩んではなりません」「お互いに  
親切にしてください」

B 教会はやがて花嫁となる 5章

(1) 教会の婚約 1-17節

「あなたがたを、清純の処女として、ひとりの人の花嫁に定め、  
キリストにささげることにした」(コリントⅡ11:2)

(2) 教会の経験 18-24節

「御霊に満たされなさい」

(3) 教会の将来 25-33節

「栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」

C 教会は兵士である 6章

(1) 兵士のあり方 1-9節

「兵役についていながら日常生活に掛かり合っている者はだれも  
ありません」(テモテⅡ2:4)

(2) 兵士の敵 10-12節

「悪魔の策略」

(3) 兵士の守り 13-18節

「神のすべての武具」

(4) 兵士の模範 19-22節

イエス・キリストのよき兵士—パウロ

(5) 兵士への祝詞 23-24節